



## 11月ちようせんのステージ 校長先生のお話



9月、10月の協力のステージでは、みなさんのがんばりで、学習や行事に協力して取り組む姿がたくさん見られました。10月後半には、協力のステージ最大の行事、運動会を予定通り行うことができました。練習の取組や当日の演技に、6年生が考えてくれた運動会のスローガンのように、協力が発揮され、すべての学年で、みんなが主役の、とても盛り上がる、素晴らしい運動会になりました。今年も学年団ごとの運動会だったので、今日は少しの時間ですが、運動会の素敵な姿の写真を見て、みんなで共有したいと思います。「がんばったね」「何々が素晴らしかったよ」「もう少し詳しく教えて」など、認め合いや学び合いがたくさん生まれるといいと思います。

3・4年生の「台風の目」は、学年の壁を超えた協力が見事でした。一生懸命の応援にも協力や団結の心がよく表れていました。3年生「パワフルソーラン」は、ダイナミックな動きに練習のがんばりが表れていて、その中にユーモアが感じられるものもあり、迫力ある堂々とした演技を見て、いっぱいパワーをもらいました。4年生「チャレンジ、メラメラ!ミックスツバメDANCE!!」は、いろいろなツバメの動きやポーズがかわいくかっこよく見応えがあり、元気いっぱいの演技に、とても楽しい気持ちになりました。

1・2年生「フレフレの能力者たちによる玉運び玉入れ」は、クラスの仲間と協力した玉入れ、違う学年の仲間に協力する玉運びに、みんな一生懸命でした。1年生「えがおで つたえる みんなの想い」は、みんなのかわいい動きがばっちりそろい、笑顔いっぱいのダンスに、見ている人も笑顔になりました。2年生「2年生 KICK&SLIDE が好き」は、見とれるような工夫されたポーズや隊形の動きがたくさんあり、上手になった踊りに合わせてボンボンも元気いっぱいに動き、2年生の成長がよく伝わってきました。

5年生「wasted night —5年生の挑戦—」は、たくさんのオリジナルポーズ、ダイナミックで連動的な動きの構成に見入りました。6年生に近づいてきた今、袋井北小の立派な6年生になるという強い決意、挑戦の心が感じられ、頼もしく思いました。6年生「創造」は、見入ってしまうような多種の振り付け、クラスダンス、きびきびしたフラッグの動きに、しなやかさやたくましさ、一体感が感じられ、実行委員をはじめみんなで立派な作品をつくったんだと、見る側も大きな喜びを感じました。5・6年生「玉入れ・綱引き」は、学年、クラスを超えても、勝利に向かって心から協力して、楽しい競技をつくることできることを証明してくれました。

このようなことから、運動会ではステージ目標である協力がたくさんできたと思います。また、11月からのステージ目標は挑戦ですが、よりよい演技にしようとか、自分たちでダン



スの曲や振り付け、隊形の動きを考えようという挑戦の気持ちも、たくさん感じられました。5年生のダンスの種目名に「挑戦」という言葉が入っていましたが、このことを象徴しているように思いました。

6年生は、運動会を盛り上げようという目標をもち、プロジェクトを中心に協力して、ダンスの種目名である創造をしていましたが、これも素晴らしい挑戦だったと思います。このようなことから、挑戦に必要なことは、いいものを創造しようという目標をもつことと協力だと考えました。

挑戦には、運動会のように集団として挑戦するものもありますが、「テストで何点を取る」「縄跳びで何回跳べるようになる」「検定に合格する」などといった個人の目標への挑戦もあります。個人の挑戦でも、目標や協力があると、心のエネルギーが高まります。みなさんは、つながりや協力のステージでがんばってきたから、仲間といい関係、絆ができたから、いい挑戦ができそうです。運動会で学んだことを生かして、個人でも集団でも、目標をもって協力して、いろいろなことに挑戦してみてください。



## 袋井あやぐも学園や周南たちばな学園につながる袋井北小の教育

### ～袋井市・幼小中一貫教育の充実を目指して～

袋井市の幼小中一貫教育は3年目を迎えました。どの学園においても、袋井市の教育の基本理念である「心ゆたかな人づくり」の下、子どもに自己有用感と自己肯定感を育みながら、自ら行動する力（自立力）と他者と協働する力（社会力）を身に付けることを目指した教育が行われています。

本校は、袋井あやぐも学園の構成校、周南たちばな学園の連携校となっています。ICTや思考ツールなどを活用し、子どもが考える力を伸ばしながら学ぶ「袋井型授業づくり」、袋井特別支援学校との連携を生かした特別支援教育など、袋井の教育の重点取組が推進されています。袋井市では、どの学校から進学してきた子ども（本校で言えば、本校から周南中へ進学する児童）も戸惑ったり困ったりすることがないように配慮しながら、学園同士が連携し、同じ理念の下で教育を推進しています。本校でも、小学校段階の子どもに大切な「受容と枠組み」を大切にしたい指導を重ね、努力してまいります。

袋井あやぐも学園の園や学校では

子どもたちにボイスシャワーや前向きになる言葉を掛けるよう

取り組んでいます！

ここでは、学園の心づくり部の教員が「こんな言葉を掛けたい」と話し合った一例を紹介します。

○朝、登園・登校した場面では

- ・元気に挨拶できたね。・気持ちのよい挨拶ありがとう。・すてきな笑顔だね。
- ・暑い中が頑張って歩いて来たね。・朝の支度が早いね。



○授業中（学校）やあそび（園）の場面では

- ・ナイスアイデア！ ・ノートの字がきれいだね。 ・さすが〇〇さんだね。
- ・素敵な考えだね。 ・あきらめないで考えていてすごいね。
- ・そんな言葉が出てくるなんて、本当にしっかり考えたんだね。
- ・自分の言葉で言えるって大事だね。



○給食の場面では

- ・この前より食べることができたね。自分のペースが分かってきたね。
- ・苦手なものもが頑張って食べているね。

★行動がゆっくりな子には・・・

- ・丁寧にできていてえらいね。次は丁寧さとスピードにチャレンジしよう。
- ・何か困っていることがある？

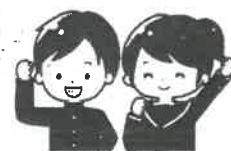
★集中する場面で、おしゃべりに熱中してしまっている子には・・・

- ・すごいね、もうここまで進んでいるよ。次は何かな。
- ・口と同じくらい手を動かすと早いよ。

★子どもがいららしているときには・・・

- ・何かあったのかな。話を聴くよ。
- ・少し休憩してから始めようか？

こんな場合もあります



御家庭でも参考にしてみてください。